

元気で暮らそう 家族の健康

子どもがかかりやすい
耳の病気について

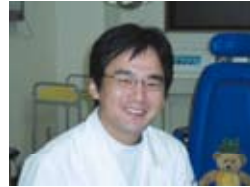
つのだ耳鼻咽喉科
角田 歩先生

急性中耳炎

お子さんが急に耳が痛いと言ってきた時、その原因で一番多いのが急性中耳炎です。

急性中耳炎は、鼻の奥に感染した細菌やウイルスが鼻の奥と鼓膜の内側を繋いでいる管を通じて、鼓膜の内側の空洞(中耳腔)に感染することで発症します。

夜中に急に激しい耳痛を訴えられると心配になると思いますが、耳鼻咽喉科への受診はその翌日で治療上問題はありませんが、夜間は痛みを取ってあげるだけで十分で、それには解熱剤として準備している座薬や飲み薬を使います。解熱剤は、鎮痛作用も持っていますので常用量の必要最低限で使用して下さい。



滲出性中耳炎

耳を痛がらず、聞こえが悪くなる症状がでた時に多いのは滲出性中耳炎です。

滲出性中耳炎は、滲出液(粘膜から滲みでた液)が鼓膜の内側の中耳腔にたまり、音の伝わりを悪くします。この滲出性中耳炎は、急性中耳炎から続けてなる場合がほとんどです。

お子さんが小さいと「聞こえにくい」と自覚症状を訴えないことがあります。お母さんやお父さんでしか気がつかない場合があります。おこりつぽく、よく泣く、呼びかけに答えない、聞き返しが多い、テレビの音を大きくする、などの症状に注意してあげて下さい。

治療は時間がかかることが少なくなく、のみ薬などの治療で効果がない場合は鼓膜切開や中耳換気チューブを入れることもあります。

また滲出性中耳炎を長引かせる要因としてアレルギー性鼻炎や副鼻腔炎(蓄膿症)の存在があり、これら鼻疾患も同時に治療を要することが多いです。

一般的には小児の場合、中耳炎を繰り返していても将来的に難聴を生じることはほとんどありませんが、診断されたら必ず十分な治療を受けてそのつど完治させるようにしてあげてください。